

(様式5)

# 調査報告書

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 訪問調査日   | 2008年1月18日              |
| 調査実施の時間 | 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分 |

|                   |                          |
|-------------------|--------------------------|
| 訪問先事業所名<br>(都道府県) | グループホーム ここから陽光園<br>(大阪府) |
|-------------------|--------------------------|

## 外部評価項目構成

|                                | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| . 理念に基づく運営                     | 11  |
| 1. 理念の共有                       | 2   |
| 2. 地域との支えあい                    | 1   |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用          | 3   |
| 4. 理念を実践するための体制                | 3   |
| 5. 人材の育成と支援                    | 2   |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援            | 2   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応      | 1   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援      | 1   |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント     | 6   |
| 1. 一人ひとりの把握                    | 1   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2   |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援              | 1   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働    | 2   |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援        | 11  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                | 9   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり        | 2   |
| 合計                             | 30  |

|          |                                      |
|----------|--------------------------------------|
| 評価調査員の氏名 | 氏名 日野 和臣                             |
|          | 氏名 篠塚 貴輝                             |
| 事業所側対応者  | 職名 施設長・管理者                           |
|          | 氏名 山田 強・原田 裕子<br>ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人 |

## 記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。  
「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

## 項目番号について

外部評価項目は30項目です。  
「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。  
「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

## 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

|       |  |
|-------|--|
| 事業所番号 | 2775502798                             |
| 法人名   | 株式会社エートス                               |
| 事業所名  | グループホーム ここから陽光園                        |
| 所在地   | 大阪府八尾市陽光園1丁目5番11号<br>(電話) 072-995-3230 |
| 評価機関名 | 福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店                |
| 所在地   | 大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル3階            |
| 訪問調査日 | 平成20年1月18日                             |

【情報提供票より】(19年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 18年 3月 1日           |
| ユニット数 | 2ユニット 利用定員数 18人           |
| 職員数   | 14人 常勤11人, 非常勤3人, 常勤換算14人 |

(2) 建物概要

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 建物構造 | 木造 造り<br>2階建ての 1~2階部分 |
|------|-----------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                 |                |       |       |
|---------------------|-----------------|----------------|-------|-------|
| 家賃(平均月額)            | 55,000 円        | その他の経費(月額)     | 円     |       |
| 敷金                  | 有( 円) 無         |                |       |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 300,000 円) 無 | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無 |       |
| 食材料費                | 朝食              | 300 円          | 昼食    | 600 円 |
|                     | 夕食              | 800 円          | おやつ   | 100 円 |
|                     | または1日当たり 円      |                |       |       |

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

|       |          |      |     |    |     |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 13名      | 男性   | 5名  | 女性 | 8名  |
| 要介護1  | 1        | 要介護2 | 3   |    |     |
| 要介護3  | 4        | 要介護4 | 5   |    |     |
| 要介護5  | 0        | 要支援2 | 0   |    |     |
| 年齢    | 平均 80.6歳 | 最低   | 68歳 | 最高 | 91歳 |

(5) 協力医療機関

|         |                |
|---------|----------------|
| 協力医療機関名 | 医真会八尾総合病院・西村歯科 |
|---------|----------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年3月に開設した当ホームは、JR八尾駅から徒歩7~8分の所に位置する。静かな住宅街の中に落ち着いた外観の2階建ての2ユニットから構成される。「人と人とのふれあいの心を大切に」を理念に掲げ、個別ケアに取り組んでいる。日常的に、午前中に体操を行ない、午後からは個別にレクレーションで楽しみ、気候の良い日には、近隣の散歩や買物、ホームの敷地内で日向ぼっこなど外気に触れることで、気分転換を図る機会がある。家族の来訪も多いため、今後も希望、要望の聞き取りに注力されサービス提供に結び付けると共に、地域に根づいたホームの運営をされることを期待される。

【重点項目への取組状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)   |
|      | <p>今回が初めての外部評価の受審であり、自己評価や外部評価を通じて、業務の振り返りを行い、今後のサービスの質の向上に取り組みたい考えである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者より職員会議で外部評価の意義や狙いについて説明がなされ、今回の自己評価作成は管理者、計画作成担当者が行い、他の職員に周知している。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、高齢クラブ、市職員、家族、入居者、法人職員等の出席の下、2ヶ月に1回、会議が開催されている。ホームの現状、生活の様子、行事予定等の報告、また要望聞き取り等を通じて意見交換がなされている。会議の内容は職員会議で報告し、サービスに反映させている。</p>      |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の来訪が比較的多く、その際に要望の聞き出しに努めている。また、意見や要望を出して頂けるように、各居室で意見の聞き取りを行っている。家族から要望があった場合はその都度検討し、改善に繋げている。</p>                                       |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>回覧板や地域ボランティアから情報を得て、運動会やお祭り等の地域行事に参加している。また、地域ボランティアによる健康体操やカラオケ、大正琴などイベントを中心に地域との交流に努めている。現在、運営推進会議を通じて情報を得ながら、地域住民との交流を拡げてゆける様、努めて行きたい考えを持っている。</p>   |

## 2. 調査報告書

主任調査員氏名:日野和臣 / 同行調査員氏名:篠塚貴輝

| 外部評価                         | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|------------------------------|------|--|---|---------------------|--|
| <b>.理念に基づく運営</b>             |      |  |   |                     |  |
| <b>1. 理念と共有</b>              |      |  |   |                     |  |
| 1                            | 1    | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている    | 地域の中で人とのふれあいを大切に、共に支えあう関係作りを主眼においたホーム独自の理念を掲げている。   |                     |  |
| 2                            | 2    | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                       | ホーム玄関口に基本理念・運営方針を掲示している。月1回行なわれる職員会議の中で理念や運営方針にふれる機会を持つことで共有を図っている。   |                     |  |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |      |  |   |                     |  |
| 3                            | 5    | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の回覧板や民生委員・地域ボランティア団体などから情報を得て、運動会や祭りに参加している。また、地域ボランティアによる月1回の健康体操や地域の保育園児らの訪問を受ける等の交流を図っている。                     |                     |  |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |      |  |   |                     |  |
| 4                            | 7    | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる   | 今回が、ホーム開設以来、初めての外部評価受審である。職員会議で外部評価の意義や狙いについて説明し、自己評価は管理者、計画作成担当者主体で取り組んでいる。今回の評価結果を踏まえ、今後のサービスの質の向上に活かしていきたい考えである。 |                     | 自己評価の作成は、一連の過程を職員全員で行なうことが重要であると考え。年1回の評価を計画的に実施することでサービスの質の向上に活かして行く取り組みに期待したい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 5    | 8    | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>              | <p>民生委員、高齢クラブ、市職員、利用者、家族、施設管理者の出席のもと、2ヶ月に1回開催されている。ホームでの生活の様子や現状での取り組み、行事予定について報告している。要望の聞き取り等を含め意見交換がされている。</p> |                     |                                  |
| 6    | 9    | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>                               | <p>運営推進会議の議事録の提出時、八尾市介護保険連絡協議会の出席の際などに相談や意見交換を行う機会がある。協議会での研修を通じて、サービスの質の向上に活かしている。</p>                          |                     |                                  |
| 7    | 14   | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>                              | <p>日々の生活や健康状態については、面会の際や個別の手紙等で定期的に家族へ報告している。また、金銭についてはホームで立替え、毎月1回、個別に収支報告している。</p>                             |                     |                                  |
| 8    | 15   | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>                                | <p>利用者家族の訪問が比較的多く、その際に個別に意見交換や要望の聞き取りを行なっている。聞き取った内容は日々の申し送りや職員会議で話し合い、改善に活かされている。</p>                           |                     |                                  |
| 9    | 18   | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>職員全員が馴染みの関係を築けるように2ユニットでローテーションを組んで日々の援助を行なっている。管理者は入居者に積極的なコミュニケーションを図ることで、ダメージや不安の軽減に繋げている。</p>             |                     |                                  |

| 外部評価                            | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------|------|---|--|---------------------|----------------------------------|
| <b>5.人材の育成と支援</b>               |      |   |  |                     |                                  |
| 10                              | 19   | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                | 月1回の職員会議の際に、職員から提案された案件について勉強会を開催している。また、適時、管理者が人選し外部研修に参加させる機会が設けられ、参加者による報告会も行われている。     |                     |                                  |
| 11                              | 20   | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      | 地域の介護保険連絡協議会に参加し、グループワーク等を通じて、意見交換を行なっている。また、他のグループホームを見学する機会を得て、交流を図ることで、サービスの質の向上に繋げている。 |                     |                                  |
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>       |      |   |  |                     |                                  |
| <b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |      |   |  |                     |                                  |
| 12                              | 26   | 馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に本人、家族と十分に意見、要望の聞き取りを行なっている。また、体験入居を取り入れて、ホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらえるように努めている。                  |                     |                                  |
| <b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |      |   |  |                     |                                  |
| 13                              | 27   | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 入居者の得意分野を引き出し、力を発揮出来る場面づくりに配慮している。また、日常生活の中で入居者から、人生の経験や知恵を学ぶ機会がある。                        |                     |                                  |

| 外部評価  | 自己評価 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|---|------|---|---|---------------------|--|
| <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p> |      |   |   |                     |  |
| 14  | 33   | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>  | <p>一人ひとりとの関わりの中で、本人の意思や要望の聞き取りに注力している。また、表情やしぐさなどから、それとなく把握するように努めている。</p>                            |                     |  |
| <p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>              |      |   |   |                     |  |
| 15  | 36   | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>     | <p>入居前に希望、生活暦、状態を把握する為のアセスメントを行い、家族の希望も織り込みながら介護計画を作成している。目標も身体状況に応じて、個別に設定されている。</p>                 |                     |  |
| 16  | 37   | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>月に1回のモニタリングを実施している。状況の変化や要望などは日々の申し送りやケアカンファレンス等で話し合われ、介護計画の見直しに反映されている。</p>                       |                     | <p>介護計画更新時期は長期目標に合わせているが、短期目標期間での見直し・更新を行なうことによって、実情に応じた、よりきめ細かいサービスの提供に繋げていくことを期待したい。</p> |
| <p>3.多機能性を活かした柔軟な支援</p>                           |      |   |   |                     |  |
| 17  | 39   | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>                                   | <p>必要な備品の準備や補充、行政への手続きの代行等を行なっている。医療連携体制を導入し、日々の健康管理や医療活用を強化している。また、今月より歯科と提携することで定期的な往診体制を整えている。</p> |                     |  |

| 外部評価                               | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |      |  |   |                     |                                  |
| 18                                 | 43   | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 入居前に本人と家族の希望を確認し、かかりつけ医や希望する医療機関での受診を家族の付き添いを基本としながらもホームとして出来る限り支援している。また、隔週でホーム提携医の往診もある。  |                     |                                  |
| 19                                 | 47   | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームとして終末期、看取りのケアを行なっている。重度化した場合等については状況に応じて本人、家族の意向、主治医の意見を聞いた上で本人にとってどうすることが良いかを職員間で話し合われている。終末期ケアに入る前には勉強会を開催し職員の理解を深め、ケアの統一を図っている。 |                     |                                  |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>     |      |  |   |                     |                                  |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |      |  |   |                     |                                  |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                 |      |  |   |                     |                                  |
| 20                                 | 50   | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 入職時、勉強会の機会を通じて、職員に対して、個人情報の取扱い、プライバシーについて説明がされている。入居者の居室に入る際もノックをし、声かけも丁寧であり、入居者の自尊心を損なうことのないように配慮されている。                              |                     |                                  |
| 21                                 | 52   | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 生活のリズムに配慮しながら、起床や食事の時間については本人のペースで行なえるよう柔軟に対応している。日々の会話から得た希望や要望に対して、できる限り対応するように努めている。   |                     |                                  |

| 外部評価                          | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-------------------------------|------|--|--|---------------------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |      |  |  |                     |   |
| 22                            | 54   | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 献立の作成と食材の搬入は外部に委託し、職員が調理する形態となっている。献立の作成には入居者の好みを反映できるように日常的に食事評価を実施し、給食会議の場で話し合われている。                 |                     | 食事は入居者にとって喜びや楽しみのある場であり、職員全員と一緒に食事を取ることで連帯感も生まれるのではないかと考える。食材料費の負担や休憩時間等の兼ね合いから難しい面もあるかと思われるが、入居者と一緒に食事を楽しめる環境づくりが望まれる。 |
| 23                            | 57   | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 週に3回の入浴を基本として、入居者に確認の上、入浴やシャワー浴などの援助が行なわれている。ホーム側で入浴日を設定しているが身体の状態等によって柔軟に対応する仕組みがある。                  |                     | 入浴を清拭保持と喜びや楽しみのある場と位置づけ、意見や要望を積極的に聞き取り、入浴の回数や時間に幅を持たせることで満足度を高めるべく、取り組みに期待したい。  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |      |  |  |                     |   |
| 24                            | 59   | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 掃除、洗濯物たたみ、食器洗い等、入居者の出来ることを活かして家事を中心に役割を持って過ごしている。また、ぬり絵や健康体操などレクリエーションを楽しんだり、庭に出たりするなど、気晴らしの支援が行われている。 |                     |   |
| 25                            | 61   | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援している                    | 近隣への散歩や買物などの援助は不定期であるが行なっている。入居者からの希望が出にくい状況にある中、庭いじりや日向ぼっこなど外気に触れる機会をもっている。                           |                     |   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |      |  |  |                     |   |
| 26                            | 66   | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 家族からの要望もあり入居者の安全性を第一に考え、現在は1、2階の入り口とも施錠している。不穏時や帰宅願望が強い入居者に対しては、積極的なコミュニケーションや散歩など個別に対応している。           |                     | 立地条件等により難しい面もあるが、鍵をかけられ自由に外出できない入居者の立場に立ち、いかに支援するかという意識を持ち続けられることが望まれる。   |



| 外部評価                      | 自己評価 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | 印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 27                        | 71   | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                | 災害時のマニュアルを整備し、年に1回、入居者参加のもと、避難訓練を実施している。また、災害時に地域住民へ協力の依頼している。   |                     |                                  |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |      |  |  |                     |                                  |
| 28                        | 77   | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 入居者の毎食後の食事摂取量や水分量を把握することで個々の健康管理に努めている。また、毎食のメニューは外部の栄養士が作成しており、栄養のバランスが取れたものとなっている。                                     |                     |                                  |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |      |  |  |                     |                                  |
| (1)居心地のよい環境づくり            |      |  |  |                     |                                  |
| 29                        | 81   | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間はソファやテレビ等が配置され、明るく清潔感が感じられ、ゆったりと過ごす事が出来るスペースが確保されている。入居者と作った小物や絵などが飾られ、また食事やお茶の時間などは馴染みの湯のみを使用するなど、家庭的な雰囲気作りに配慮している。 |                     |                                  |
| 30                        | 83   | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 入居時に本人や家族と相談し、これまでの使い慣れたものや好みのものを持って来てもらうように説明している。タンスや家族の写真など居心地の良い居室環境づくりに配慮している。                                      |                     |                                  |

は、重点項目。